銀漢亭日録

伊藤伊那男

10月14日（火）
▼宮澤サイパンへ出張。「俳句・平成俳壇」選句、一日遅れで発送。この十二月号をもって私の選は終了とさせてもらう。

15日（水）
▼「三水会」三人と、淋しい。店は仲間が最後に残ってカラオケ大会の様相に。

16日（木）
▼「銀漢句会」あと十六人。「週刊金曜日」伊達さん二人。大西酔馬さん、洋酔さん出版記念会あと転倒、骨折と。四軒はしごの末と……やってしまった……。私は三軒目で退散している。酒を飲むのも命がけ……。

18日（土）
▼十二時、本郷の「鳳明館・森川別館」。四十二名集合、「鍛練句会」。

19日（日）
▼十二時半、近くの「随一望」にて三十数名で昼食を兼ねた懇親会、昼酒に酔う。

20日（月）
▼「演劇人句会」七人。角川「俳句」座談会あとの橋本榮治、横澤放川、津川絵理子、鈴木忍編集長。来月、店で「写真とコトノハ展」を開く幹事、倉田有希さん他。皆川文弘さん。

21日（火）
▼井月本ゲラ校正。店、超閑散。宮澤、サイパンから戻った翌朝から伊勢の撮影だったので久々会う。

22日（水）
▼店、対島康子さん久々。誕生日！　シャンパンで乾杯、三本ほど。「北軽井沢句会」から「全国俳誌協会編集賞」受賞祝いの花束届く。三輪初子さんと長さん夫妻。

23日（木）
▼十一時より、「シェ松尾青山サロン」にて「第五回全国俳誌協会編集賞授賞式・祝賀会」。受賞の言葉、やや緊張する。北澤一伯君、松本から来てくれる。デザインの馬場龍吉さんも。編集部の方々、八人と喜びを分かち合う。編集部は戻って十一月号発送。店、広渡敬雄さん、鈴木忍さんら、登山の打ち上げ。

25日（土）
▼午後、「纏句会」あと風呂吹大根、題に出た鮭の酒蒸し、鮭と野菜の汁、握り。十七時過ぎの上越新幹線に乗り、井月の故郷・長岡へ。昼から行っていた大野田君と合流。駅前の「松本」にて魚料理。長岡は駅そのものが城の中。あと、「たこの壺」という店。刺身、朴葉片肉、その他。最後は蛸めしまで食べて……もういけません。長岡グランドホテル泊。

26日（日）
▼今日も快晴。たっぷり睡眠、九時、行動開始。千手観音寺へ。井月の生家跡と言われる地。戻って二の丸跡お祭広場で牛スジうどん。長岡藩主牧野家史料館訪ね、長岡市科学博物館歴史研究室学芸係長の広井造さんに質問など。その足で中央図書館に行き、二時間ほど調べもの。十四時過ぎから、駅ビルの蕎麦屋「小嶋屋」あと「あさひ山」昨夜寄った「松本」と三軒飲み歩いてしまう。大野田君はよく飲む人である。釣られて、ああ……。新幹線熟睡。

29日（水）
▼「雛句会」十数名。「銀漢」十二月号選句、少し遅れて編集長へ渡す。これから文章の部へ。妻の従姉妹、川村悦子さん清水六兵衛と松坂屋名古屋店でコラボ展の案内。

30日（木）
▼悦子さんにメールを入れると今日、東京にいるとて夜、店に来る。年末、京都で飲む約束。天野小石さん、本日で木曜日のアルバイト引退とて、ファイナルデー。聞きつけて三十数名ほど集まる。歌と踊り！

31日（金）
▼松川洋酔さん、句集『水ゑくぼ』出版祝賀会のおつかれさま会、二十人。

11月1日（土）
▼九時、吉祥寺駅北口集合。武田車、秋葉男車に分乗して蓼科へ。坪井車は前日から。昼、ほうとう鍋。武田山荘に荷をおろし、「滝の湯」へ。十七時より、馬肉の刺身、馬肉すき焼き、鹿肉のウィンナシュニッツェル、煮イカ、鮑酒蒸しなどの宴会。恒例の会ながら、全国俳誌協会編集賞の受賞記念をかねて。十二人。五句出し句会。私は坪井山荘へ泊。

2日（日）
▼八時、武田山荘で朝食。北八ヶ岳ロープウエイ駅にて三句出し句会。あと二千四百米の坪庭を一周。諏訪大社神長官守矢史料館へ。諏訪大社の歴史を学ぶ。感動。十六時半帰宅。家族で食事。

3日（月）
▼九時、成城学園文化祭へ。仮装行列の出し物や展示品。餅搗きなどを見る。昼寝。十六時くらいに成城仲間五家族が来宅。計二十人ほど。バーベキュー、ちゃんこ鍋、うどんすきなどで大騒ぎ。私もすっかりこの仲間に馴染んでしまって……また……。

4日（火）
▼「銀漢」十二月号の原稿終了。いつもより少し遅れ、編集部に迷惑かけてしまう。角川から井月本、ゲラ校正の催促受ける。「春耕」の朱鷺の一句の選。「一茶・山頭火俳句大会」事前投句の選。「春耕賞」六十三編の選は二日後が締め切り。なかなか厳しい時間配分。ヘアメイクの中川さん来て散髪。

6日（木）
▼長女・桃子誕生日。今日から、家族、学校の受験休みを利用して伊勢・鳥羽～大阪ＵＳＪへ五泊の旅と。店、「十六夜句会」。本日より月一回、田所ゆきさん入店にて、日下野由季さん他来店。賑やか。

8日（土）
▼十時、運営委員会。昼、大野田さんと伊那行きの打ち合わせ。十四時、「銀漢本部句会」。十七時、退席し、ホテルオークラ東京・平安の間。「未来図」三十周年祝賀会。ロビーで有馬先生と目が合うと「うちの者が世話になってますね」と飲む仕草。若狭男、中西夕紀さんと隣席。あと、行方、放川、忍、節子、光雄、土肥、未知子、小圷、高士、本井、真砂年さんと新橋へ出て「和民」で二次会。

10日（月）
▼「写真とコトノハ展」ＶＯＬ．９（倉田有希さん代表）十五時から展示作業。二十数人が出展。中に、角川賞作家三人いると。初日とて大勢。発行所は「かさゝぎ俳句勉強会」あと十二人。皆川文弘さん来店。米のお土産。

11日（火）
▼初子さん四人。清人さん「鮪と牡蠣の会」、出版関係者三十人ほど。焼きそばも。

15日（土）
▼八時半、あずさ号にて茅野。大野田君迎えてくれて杖突峠から伊那へ。快晴。富士の白嶺を遠望す。高遠「ますや」にて高遠そば三種盛り。名店。井月の墓を詣で出版の報告。ベルシャイン伊那店文化ホールの「春日愚良子俳句展」。愚良子先生と面談す。十五時半、ニシザワいなっせ店にて、竹入弘元先生と面談。お二人に出版のご報告をすると共に、いくつかの質問を。十七時、小池百人さんと駅前「桜や」にて酒盛り。馬刺ほか。あと大野田君友人のラーメン店。ホテルに戻り二人で最終校正の調整。

16日（日）
▼朝、零下二度だったと。さすがに信州は寒い。昼過ぎに戻り。愚良子・竹入両先生の質問点などを加えてゲラ最終校正。

18日（火）
▼「三水会」五人。市毛唯朗さん四人。朝日新聞文化グループ・宇佐美貴子さんと望月周さん夫妻。「慶應茶道会」先輩・枡田さん夫妻。母上は行方克己さんの弟子。

20日（木）
▼「爽樹」環さん女子会七人。「港」編集部・折原さん五人。入れ替わりに「銀漢句会」あとの十六人。その他賑わう。帰宅すると娘夫婦起きていたので一緒に飲む。

21日（金）
▼「蔦句会」あと六人。「写真とコトノハ展」最終日。十二人打ち上げ会。清人さんの弟・和人さん夫妻、気仙沼から。歓迎の集い、三十人ほど集まる。牡蠣、しゅうり貝、ムール貝など山ほど届く。兄上・信一さんから京都の鯖鮓・穴子鮓など。贅沢な宴となる。